



## 活動証明シールを 森林ボランティアグッズと交換しよう!

森林ボランティアの皆様の日頃の活動に感謝して、ボランティアグッズを活動証明シールと交換します。

交換方法	①「森林ボランティア活動支援物品交付申請書」(通信に同封・支援センターHPに掲載)に交換を希望する物品の個数・受け取り場所などを記入。 ②「ボランティア通い帳」と交付申請書を支援センターに郵送する。 ③支援センターから返送された「申請書写し」を持って物品を受け取る。
交換場所	各振興局・森林づくりボランティア支援センター
申込締切	令和8年2月末日

\*交換に必要なシールの枚数\*



シール数	交換グッズ
3枚	もりりんタオル
5枚	もりりんスポーツタオル
8枚	鎌(中厚)or鋸 替え刃
12枚	鋸 or ヘルメット

問合せ 大分県森林づくりボランティア支援センター  
tel&fax 097-578-8151

## 大分県 県民の森

広葉樹林等の庭木を自然風に仕立てる  
剪定や管理の実技講習

日 時 2月8日(日)10時~12時

場 所 県民の森管理事務所



募 集 30名(多数の場合は抽選)

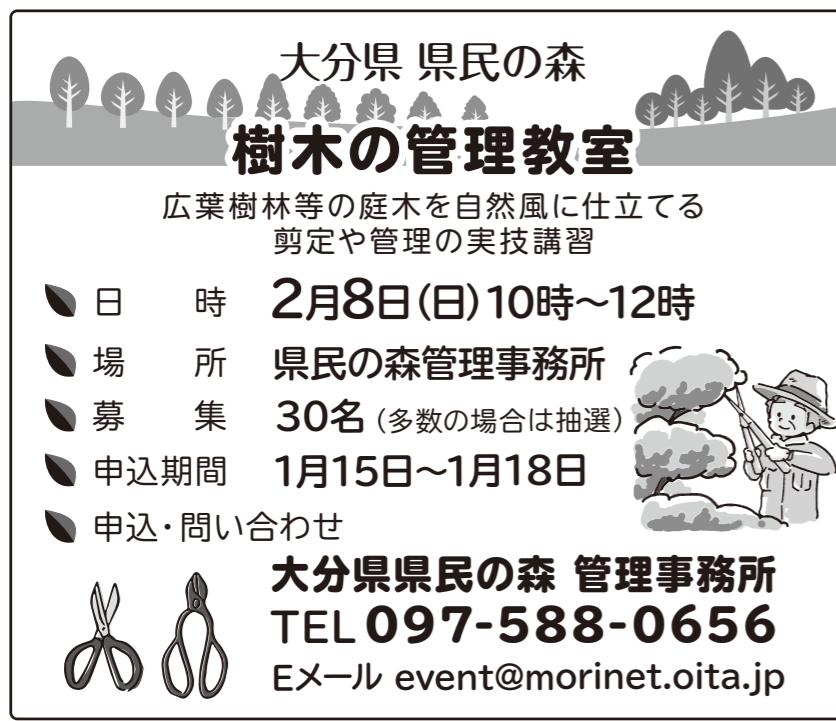
申込期間 1月15日~1月18日

申込・問い合わせ

大分県県民の森 管理事務所  
TEL 097-588-0656  
Eメール event@morinet.oita.jp



どんぐり君 232



大分県森林づくりボランティア支援センター通信は、大分県森林環境税を活用しています。

..... 森林ボランティア活動を推進するための情報誌です。.....

# 大分県森林づくり ボランティア支援センター 通信

発行

大分県森林づくり  
ボランティア支援センター

第232号 2026.1.1発行

## 新年 明けましておめでとうございます

今年も 楽しく 無理せず 怪我無く  
未永く 森林ボランティア活動をお願いします

今年は午年。パカパカ元気に進みましょう。近年気象の変動が大きいのですが、山の木々は今のところ大量に枯れたり倒れたりはしていないようです。きっと見えないところで頑張っているのでしょう。森林ボランティア活動で応援したいですね。



グリーンインストラクターおおいた  
オオイタサンショウウオ保護池保全

## ●現在募集中の森林ボランティア情報●

日 時	活動場所 (集合場所)	作業内容	持ち物	主催 申し込み
			参加費	
1月8日(木) 10時~15時 (9時40分集合)	杵築市山香	伐採・伐採補助	昼食・飲み物・手袋・安全靴・ヘルメット	もりもり 森 守 [木村] 携帯 090-9690-7377
	杵築市山香 庁舎駐車場		参加費 無料	
1月14日(水) 10時~15時 (9時40分集合)	杵築市山香	伐採・伐採補助	昼食・飲み物・手袋・安全靴・ヘルメット	もりもり 森 守 [木村] 携帯 090-9690-7377
	杵築市山香 庁舎駐車場		参加費 無料	
1月17日(土) 8時半~11時半頃	大分市横尾 うーたの里山	草刈り等	作業のできる服装	うーたの会 [加藤] 携帯 090-6298-6363 雨天の場合24日
	入り口広場		参加費 無料	
1月24日(土) 9時~11時	大分市上野ヶ丘 墓地公園	ヤブの 整理・剪定	飲み物・あれば ヘルメット・鋸・鎌	おおいた上野の森の会 [池松] 携帯 080-6441-1873
	旧公園管理 事務所前		参加費 無料	
1月28日(水) 10時~15時 (9時40分集合)	杵築市山香	伐採・伐採補助	昼食・飲み物・手袋・安全靴・ヘルメット	もりもり 森 守 [木村] 携帯 090-9690-7377
	杵築市山香 庁舎駐車場		参加費 無料	

\*活動の3日前までに申し込んでください。

# 2億年前から変わらぬ姿の イチョウ 銀杏

## 歴 史

イチョウの木はペルム紀（2億年以前）に出現した世界で最も古の現生樹種です。世界的に繁茂しましたが、ヒトの出現期（700～500万年前）である大氷河期にはほとんど絶滅寸前になっていました。が、中国南部の谷間で生きながらえていたのです。イチョウは中国各地で栽培されるようになりました。日本にもやってきました。18世紀長崎、出島に居留を許されていたオランダ人を通してヨーロッパに広まり、世界中で栽培されるようになりました。

## 分 類

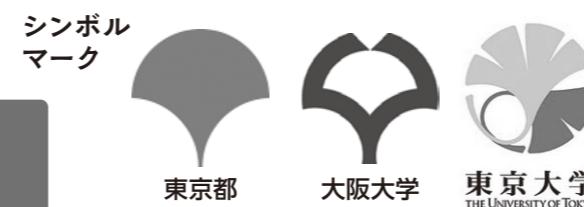
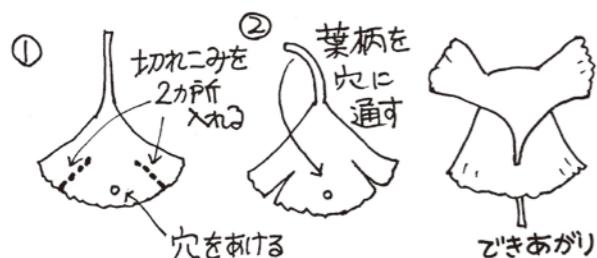
イチョウ GINKGO.biloba イチョウ科イチョウ属  
銀杏・公孫樹 裸子植物。落葉高木。  
大きいものは高さ30m、直径2.5mほどになります。  
雌雄別株。雌木には銀杏が実ります。

## 受精の仕組み

春に風で運ばれた花粉が雌花の胚珠（むき出しの種子）に入り、数ヶ月かけて花粉管を伸ばし、その中に鞭毛を持つ精子を形成、秋頃に精子が泳ぎ出して卵細胞と受精する、という特殊な仕組みです。これは、コケやシダのような原始的な植物と、花粉管で直接精細胞を運ぶ高等植物の中間的な特徴を持ち、1896年に平瀬作五郎によって世界で初めて発見されました。

「イチョウ奇跡の2億年史」ピーター・クレイン著 参照

## 葉っぱで“キツネをつくろう！”

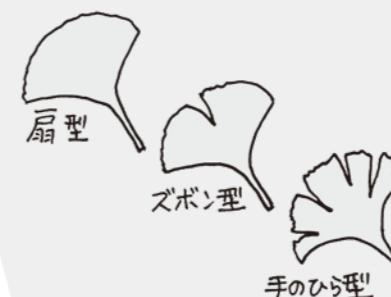


2026年 賀正



## 材

- 加工しやすく、油分を含み水はけがよい。年輪は不明瞭で肌目が緻密（まな板・碁盤・将棋盤・カウンター 等に使われる）
- 古木の幹や枝から乳柱と呼ばれる乳房のような突起が垂れ下がる。（子宝・安産・乳の出を願うといった祈願される木となることもある）



## 葉

- イチョウ葉エキスとして漢方で使われる。（血流改善・記憶力維持の紅葉があると言われている）



## 実（銀杏）

- 毒性成分（4-0-メチルピリドキシン）があり、食べすぎると、痙攣・呼吸困難などの食中毒を起こす。
- 症状を起こす個数は個人差があるので、大人は10個、子どもは数個にしましょう。
- 炒ったり、茶わん蒸しに入れたりと食用として利用されている。

